

## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局 街路課

担当課長名：松谷 春敏

<b>事業名</b> 名古屋鉄道常滑線・河和線連続立体交差事業 (太田川駅付近)	<b>事業区分</b>	街路	<b>事業主体</b>	愛知県	
<b>起終点</b>	自：愛知県東海市荒尾町 至：愛知県東海市高横須賀町、大田町		<b>延長</b>	2.8 km	
<b>事業概要</b> 本事業は、名鉄常滑線・河和線の太田川駅付近の2,765m区間を高架化して、6箇所の踏切を除却するとともに、15箇所の交差道路を整備するものである。また、駅前広場整備、土地区画整理事業などの関連事業を併せて行い、交通の円滑化と都市内の環境改善を図るものである。					
H10年度着工準備	H3年度都市計画決定	H13年度用地着手	H17年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	336億円	<b>事業進捗率</b>	26%	<b>供用済延長</b>	0 km
<b>踏切交通遮断量</b>	87,600台時/日				
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.3 (残事業) 1.9	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 203/292億円 (事業費：203/292億円 維持管理費：0.11/0.11億円)	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 379/379億円 (移動時間短縮便益：373 / 373億円 走行経費減少便益：9.3 / 9.3億円 交通事故減少便益：-3.2/-3.2億円)	<b>基準年</b> 平成19年	
<b>事業の効果等</b> ・都市の再生（土地区画整理事業、市街地再開発事業との連携により、中心市街地の発展、駅の利便性向上に寄与する。） ・個性ある地域の形成（名鉄常滑線等の高架化により太田川駅地区の一体的市街地の形成に寄与する。） 外9項目が該当					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 本事業は、東海市中心市街地の活性化、交通混雑の緩和に重要な役割を果たすことが期待されており、東海市連続立体交差事業協議会、東海市から早期整備の要望を受けている。					
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 太田川駅周辺は、平成17年2月の中部国際空港開港に伴う列車の増発により、踏切遮断時間の増加や慢性的な交通渋滞が発生している。また、連続立体交差事業と併せて土地区画整理事業が進められており、自動車交通量も増加する傾向にある。 このため、太田川駅周辺においては、道路交通の円滑化と利便性向上、関連事業による市街地の再生・発展及び安全な都市基盤の形成が重要な課題となっている。					
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成17年度に仮線工事に着手し、平成20年度には仮線切替、高架本体工事に着手する予定である。					
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 今後の見通しとして、完成年度である平成22年度に向けて事業が進められており、今後の工事においては特に問題もなく計画どおりに事業を進めることが可能と考えている。					
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 新工法等による大規模なコスト縮減はないが、再生材の使用等によりコスト縮減を図るとともに、「あいくる材」の積極的な活用等により環境負荷の低減に努める。					
<b>対応方針</b>		事業継続			
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
<b>事業概要図</b>					

次ページ

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

事業概要図



当該箇所